

第11回日本運動器疼痛学会で、「課題解決型高度医療人材養成プログラム」のシンポジウムと、三重大学・鈴鹿医療科学大学合同のブース展示が行われました。

2018年12月1日（土）に滋賀県大津市で開催された第11回日本運動器疼痛学会にて、三重大学・鈴鹿医療科学大学の合同事業「課題解決型高度医療人材養成プログラム」についてのシンポジウムと、ブース展示が行われました。

シンポジウムでは、平成28年に文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に採択された3つの大学グループが集まり、文部科学省から担当技官を迎えて講演と討議が行われました。まず、文部科学省高等教育局医学教育課の荒木裕人技官からプログラムの概要について講演があり、本事業からは



鈴鹿医療科学大学の中村喜美子先生（看護学部准教授）が、名古屋市立大学からは杉浦健之先生（名古屋市立大学病院いたみセンター長）が、山口大学からは鈴木秀典先生（山口大学医学部助教）が、それぞれの事業の状況と展開および今後の課題などについて報告しました。そして五人目の登壇者として、三重大学の島岡要先生（医学系研究科教授）が、

「持続可能な慢性疼痛チーム医療者育成への提言」を行いました。各大学グループが個々に事業展開をするよりも、文部科学省も巻き込み協働して社会全体を動かすような動きにするシステムについて講演しました。フロアからも積極的に関心を寄せる質問がいくつも出され、続く講演者全員と座長の新井貞男先生（臨床整形外科医）と山口敏彦先生（山口大学名誉教授）が中心となった討論でも、活発な意見交換がされました。痛みの医療と教育に関わる共通の思いが共有されて、プログラム全体の発展が期待できると共に、今後の我が国の社会全体の疼痛医療に、明るい展望が持てました。



シンポジウム「慢性疼痛の診療に関わる医療者育成の展望」

座長：新井貞男先生（あらい整形外科）

座長：田口敏彦先生（山口労災病院）

| | |
|---|-------------------------------|
| 「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の概要 | 荒木裕人先生（文部科学省高等教育局医学教育課 技官） |
| 「地域総活躍社会のための慢性疼痛医療者育成コース」～慢性疼痛チーム医療を推進するリーダーの育成～ | 中村喜美子先生（鈴鹿医療科学大学看護学部 准教授） |
| 慢性疼痛患者の生きる力を支える人材育成と診療体制構築 | 杉浦健之先生（名古屋市立大学病院いたみセンター 教授） |
| 慢性の痛みに関する教育プログラムの構築－課題解決型高度医療人材養成プログラム：慢性の痛みに関する領域－ | 鈴木秀典先生（山口大学大学院医学系研究科整形外科学 助教） |

慢性疼痛チーム医療者育成のためのコミュニティー構築をサポートする専門職の必要性

島岡要先生（三重大学大学医学系研究科 分子病態学 教授）

また学会開催の2日間（12月1日、2日）、本事業に関するブース展示を行いました。学会でのブース展示は、本年4月の日本ペインクリニック学会東海地方会に続いて2度目の試みです。鈴鹿医療科学大学の伊藤和寛先生（保健衛生学部助教）と三重大学の上條史絵（医学系研究科特任助教）が、展示案内を担当しました。疼痛教育について関心をもって質問を頂き、本事業の遡及が出来ました。

今後も他大学の事業グループや鈴鹿医療科学大学との協働を通じて、痛みの医療と多職種連携教育に尽力していききたいと思います。



三重大学大学院医学系研究科 麻酔集中治療学 特任助教 上條史絵

